

綱の責任

横綱貴乃花が引退した。千代の富士を倒し、「平成の大横綱」として数多くの記録を塗り替えるであろうと期待されていただけに、早すぎた引退は実に惜しいと感じる。

結局は1年前の怪我をおして出場した武蔵丸との優勝決定戦が土俵人生を縮めたことは疑いようがない。今場所も途中休場後の再出場で、自らの退路を断った感があった。これらの決断には賛否両論があるが、それをとやかく論評するつもりはない。話題にしたいのはその中で何度も言われてきた「綱の責任」ということについてである。

相撲の世界では横綱は最高位であり、すべての力士の目標である。しかし横綱という地位は大関以下とは全く異なる。負けることが許されないのである。横綱が9勝6敗や8勝7敗でその地位に居続けることは許されないのである。大関ならば勝ち越しを続けることでその地位を守ることはできるし、仮に負け越せば関脇や前頭に番付を下げてでも関取を続けることもできるが、横綱には引退しか道がないのである。ここに日本人の美学があるという人もいる。

貴乃花の場合特に人気があり、まさに角界を支えていただけに、横綱として休場を続けることもできず、無理をしてでも出場する選択をしたのも「綱の責任」からであろう。

人の上に立つと言うことは責任を背負い込むことであり、自らにより厳しくなることを心に誓うことなのである。

ところが最近これを分かっていない人が少なくない。汚職政治家しかり、無責任役人しかり、サラリーマン先生しかり、浪人前提で3年間遊び回っている公立上位校の高校生しかりである。苦勞して（勉強して）今の地位についたのだから、金銭的に裕福になったり、日々気楽に遊んで過ごしたりするのは当然と思っているのではないかと思うときがある。

子供の頃、親からこう言われていたのかもしれない。

「今がんばって勉強しておけば、いい高校・大学から会社に入れて将来楽になるから。」

これは大きな間違いである。地位の高い者が楽をしていて、どうして部下が一生懸命にやろうか。上に行くほど責任は増し、努力を続けなければならないのである。高い学習能力のあるものはその才能を伸ばす責任がある。それは自分一人のためだけではない。やがて社会の一員となったときのまわりの人のため、さらに日本のために自分自身を磨く必要があるのである。

'02年度3学期実力テスト結果(高森台中学)

高森台中		英語	数学	国語	社会	理科	合計
中 3	塾生	93.8	84.7	79.3	84.4	64.4	407
	学年	64.4	49.7	54.7	56.0	35.9	262
中 2	塾生	88.6	88.9	69.1	73.0	80.0	400
	学年	68.2	63.6	57.9	56.7	61.3	308
中 1	塾生	91.9	89.9	87.3	82.9	90.1	442
	学年	61.9	58.3	65.3	54.4	66.0	306